

従業員のみなさんに周知徹底を



STOP!!

災害時の 一斉帰宅

大規模災害時の帰宅抑制の 必要性を知っていますか?



平成17年福岡県西方沖の地震
(現在は福岡県北西沖)
出典：九州大学

1

基本原則 むやみに移動を開始しない

大規模地震などの発生時には、公共交通機関の運行停止などにより、多くの帰宅困難者の発生が予想されます。帰宅困難者が一斉に移動を始めると、混雑による集団転倒や建物の倒壊・落下物による怪我などのおそれがあるとともに、緊急車両が通行できなくなるなど、救助・救急・消火活動の妨げになるおそれがあります。それらを防ぐために、各事業所において従業員の一斉帰宅の抑制をお願いします。



2

時間帯別 行動パターンのルール化

災害はいつ起こるかわかりません。出勤時・就業時・帰宅時など、発災時間帯を想定した行動ルールを策定し、周知徹底しましょう。



出勤時間帯など発災時間帯別に事業所がとるべき行動

基本ルール



出勤時間帯に発災

- ・原則、従業員等に自宅待機又は自宅に戻るよう指示。
- ・通勤途中で事業所に近い場合は、職場などで安全確保を指示。
- ・災害対応や業務継続を行う上で必要不可欠な人員は除く。



就業時間帯に発災

- ・従業員等に施設内待機を指示。
- ・外出中の従業員等は周辺の安全な場所で待機を指示。
- ・来所者を施設内の待機スペースに誘導。



帰宅時間帯に発災

- ・原則、従業員等に事業所待機又は事業所に戻るよう指示。
- ・ただし、帰宅途中で、自宅に近い場合は、自宅などで安全確保を指示。

3

目安は「3日分」 飲料水などの備蓄を

発災後3日間は、救助・救急活動を優先させる応急対策活動の期間とされています。従業員の一斉帰宅が救助・救急活動の妨げとならないよう、従業員を施設内に待機させられるようにしておくことが重要です。最低3日分を備蓄するとともに、備蓄場所や配布方法についても考えておきましょう。

3日分の備蓄量の目安

水 飲料水

1人あたり 1日3リットル = (計9リットル)

主食 アルファ化米、クラッカー、乾パン、カップ麺

1人あたり 1日3食 = (計9食)

毛布 毛布、保温シート

1人あたり 1枚

留意点

- ・震災時の影響の長期化に備え、3日以上分の備蓄についても検討しておく。
- ・共助の観点から、外部の帰宅困難者等(来社中の顧客・取引先など)のために、例えば10%程度の量を余分に備蓄することも検討しておく。



その他の物資(必要性が高いもの)

- ・簡易トイレ、衛生用品(トイレットペーパー等)
- ・敷物(ビニールシート等)
- ・携帯ラジオ、懐中電灯、乾電池
- ・救急医療薬品等

4

安否確認・ 情報収集手段の確保



発災時における従業員との連絡手段・手順をあらかじめ決めておくことが必要です。従業員が安心して施設内に待機できるよう、家族等との安否確認手段を従業員へ周知しておくことも大切です。被害状況など、正確な情報の収集手段についても事前に確認しておきましょう。

安否確認

災害用伝言ダイヤル(171)

安否等の情報を音声情報として蓄積し、録音・再生できるボイスメールです(災害時に限定して利用が可能)。

※災害時以外にも体験利用日(毎月1日及び15日など)が設けられています。体験利用で操作の確認をしておきましょう。

171を
ダイヤル

録音の時

- ①「1」をダイヤル
- ②自分の番号をダイヤル
- ③録音する

再生の時

- ①「2」をダイヤル
- ②相手の番号をダイヤル
- ③再生する

災害用伝言板(web171)

パソコンや携帯電話を使って被災地の方の安否情報などの伝言を登録することができる伝言板サイトです。登録された伝言情報は、電話番号をキーとして全国(海外も含む)から閲覧、追加伝言登録が可能となります。

web伝言板 <https://www.web171.jp>

携帯電話会社でもそれぞれ災害用伝言板サービスを提供しています。専用のアプリなども提供されているので、あらかじめ確認しておきましょう。

情報収集(例)

福岡市ホームページ(防災情報)

災害に関する情報やハザードマップ、事前の備えなど、さまざまな防災情報を確認することができます。

福岡市防災メール

登録しておくと、避難情報や気象・地震情報などをメールで配信します。

[福岡市LINE
公式アカウント]



LINEからも情報が取得できます。

